

やまなし自然首都圏構想研究会第2回自然首都圏構想推進部会概要

1. 日時

令和2年11月13日（金） 16:00～17:15

2. 場所

山梨県庁本館2階特別会議室（テレビ会議システム）

3. 出席者

（顧問）田坂広志

（座長）東博暢

（委員）清水喜彦、中村成志、野村明弘、山崎豪敏 ※五十音順、敬称略

（ 県 ）長崎幸太郎知事

4. 主な意見

[報告事項]

- ・ 「やまなし官民協働プラットフォーム制度」は、もっとワクワクするようなネーミングにした方が良い
- ・ 企業の持続可能な業態への転換を支援していくべき
- ・ 山梨に興味を持ってもらうため、債券の募集などマーケットから資金を調達できる仕組みを考えると良い
- ・ 事業の実施は、その手応えにより方針や中身を柔軟に見直しながら進めて頂きたい

[議事『ウィズ／ポスト・コロナにおける働き方について』]

- ・ ホスピタリティ、マネジメント、クリエイティビティといった今後必要となる能力について、アドバイスなどによりその向上を支援できる仕組みを作っていくべき
- ・ コロナ禍による社員の意識の変化や対面からリモートへの流れにより、企業規模を問わず社員の研修や教育が課題になっている
- ・ 教育にはリモートだけでなく対面も重要であり、山梨は東京にも近いことから、そのためのインフラを整えるとともに、補助金などの支援を行っていくと良い
- ・ IT人材の教育拠点を作り人材が集積すれば、ベンチャーの創出や現役世代の移住にもつながる
- ・ DX活用などのプロジェクトについて、兼業・副業も含め様々な人が集まり、権限などを与えられチャレンジするなかで、その人たちが新しいスキルを身に着け、自信とともに実績も得られる、そういった機会を山梨県が提供していったらどうか
- ・ プロジェクトのリーダー選びはその成功のみならず、人を集めるという点でも重要
- ・ 人材の過不足を解消するためだけではなく、異業種のノウハウが学べるなど、波及効果、相乗効果が得られるようなマッチングを支援していくと良い
- ・ その土地ならではの文化などを活用し、差別化したネーミングをしていくべき
- ・ 次世代の育成のため、ELSI 研究やリベラルアーツ教育の実施など、今ある大学の中を実際どうするかということも考えていくと良い